

令和4年度
第2回杉戸町環境審議会会議録

日 時 令和4年10月24日(月)
場 所 杉戸町環境センター 2階会議室

会議録様式

審 議 会 名	令和4年度 第2回杉戸町環境審議会
開 催 日 時	令和4年10月24日(月) 午前10時00分～11時55分
開 催 場 所	環境センター 2階会議室
会 議 の 議 題	(1) 第2次杉戸町環境基本計画(素案)の策定に関する 報告
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ 非公開 (公開の場合傍聴者数 6人)
	(非公開の場合理由)
出席委員氏名	藤城一巳 早乙女行雄 木村芳裕 奥山あき子 木村三樹男 坂本正博 遠藤清 中村和孝
審 議 の 概 要	・別紙のとおり。

令和4年度 第2回杉戸町環境審議会

審議会開会・閉会の日時		令和4年10月24日(月) 午前10時00分～11時55分			
議事名		(1) 第2次杉戸町環境基本計画(素案)の策定に関する報告			
委員の出席について	職名	氏名	出席状況	氏名	出席状況
	1号委員 (関係団体を代表する者)	藤城 一巳 早乙女行雄 木村 芳裕 奥山 あき子	出席 出席 出席 出席	木村 三樹男	出席
	2号委員 (関係行政機関の職員)	金子 亮	欠席		
	3号委員 (識見を有する者)	坂本 正博 秋元 智子 佐藤 杉弥	出席 欠席 欠席	戸賀崎 邦雄	欠席
	4号委員 (環境保全に関心の高い者)	遠藤 清 中村 和孝	出席 出席		

	役職名	氏名	役職名	氏名
説明者	環境課長	小野寺 満	環境課 主幹	金井 真司
			// 主査	岩瀬 正治
			// 主事	橋本 和幸
事務局	環境課長	小野寺 満	環境課 主幹	金井 真司
			// 主査	岩瀬 正治
			// 主事	橋本 和幸

発言の内容・説明等

議題（１）第２次杉戸町環境基本計画（素案）の策定に関する報告
・事務局より第２次杉戸町環境基本計画（素案）の内容について説明した。

質問 市町村における地域気候変動適応計画の策定については、努力義務となっているが、杉戸町は策定するというだけでよいか。

回答 第２次杉戸町環境基本計画の第６章を地域気候変動適応計画として、位置付けており、本計画に内包して策定した。

意見 IPCC では第６次評価報告書や 1.5℃特別報告書が出ているため、これらの内容を踏まえた記載とする必要がある。

回答 新しい報告書に関しては、記載が可能なものについて追加を行う。

意見 現行計画の数値目標について、目標を達成していないものが多いが、なぜできなかったのか、どうしたらできるかということが書かれていない。また、現行計画では、実施計画の内容が、環境基本計画に記載されている内容より、矮小化され、小さな目標となっているので改善したほうが良い。

回答 第２次杉戸町環境基本計画の進行管理として、実施計画を５年ごとに定めていくことは考えておらず、素案に記載した施策の実施状況を評価していくことを想定している。実施計画を定める際は、各課から挙げられた施策を参考としているため、ご指摘のような結果になったと考えられる。新しい環境基本計画に関しては、施策の評価について、環境課で全体的に確認を行い、目標が変わることのないようにしていく。

意見 環境に対する杉戸町のビジョンが見えない。

回答 各将来像の説明での現状と課題、取組について、前回示した素案よりも追記をしているが指摘を踏まえ、より詳細な追記について検討する。

意見 環境問題として、生態系の破壊や温暖化の問題をどうするかが大きな柱になると考える。生物多様性が一番あるのは里山だと言われており、杉戸町では農地をどのように維持していくかということを考える必要がある。生産する人たちが農業を継続できるかというようなところまで書かれていない。大規模化の話があるが、有機農業を進めていこうという政策に矛盾がある。大規模化を行うと、農薬の使用が必要となり、農薬の使用は生態系の破壊につながってしまう。食料の自給率を守り、環境を守るためにはどうしたらいいかという視点が大事だと思う。

回答 農業に関する取組指針については、産業振興課で示しており、計画も策定している。その計画の中で環境に関連する施策を本素案に記載している状況である。農業に関する環境課の関わり方として、産業振興課に対し環境分野の情報提供を行うことや、その他どのような形で関わるかについて内部で検討する。環境基本計画の中で農業に関する方針を打ち出すことは、計画の性質上、難しいと考える。そのため、産業振興課の施策を評価する際に、意見を出していくことを考えている。

意見 温暖化の問題では、省エネのことが中心となっているが、再生可能エネルギーをどのように普及し、活用していくかの目標がはっきり見えていない。特に二酸化炭素を多く排出している分野などに力をいれていくこと、またどう進めていくかということを考える必要がある。

意見 ごみの削減に関する目標が、現行計画より低くなっている。現行計画の策定当時、当時の生ごみのリサイクル率等を踏まえ、50%を目標に設定していたが、今回の素案では、35%になっているのはなぜか。また、プラスチック資源循環法の内容が計画に反映されていないと感じる。

回答 策定当時 24.4%（平成 12 年度）であったリサイクル率の現状値は、向上はしているものの 28.4%（令和 2 年度）にとどまっている。排出されるごみの内容や、杉戸町で実施できる範囲を考慮した場合、10 年の計画期間では、リサイクル率 50%の達成は難しいと考え、35%を設定している。

意見 当時、ごみの組成に関する調査を行い、その結果を踏まえて設定している目標であるため、プラスチック資源循環法に基づいたプラスチックのリサイクル促進を行えば、目標値をもっと上げられると考える。

意見 環境範囲について、自然環境に農業が含まれているが、農地は自然ではないため、ここは自然環境ではなく、地域環境としてはどうか。

意見 環境の現状において、杉戸町の農業の特徴を、より詳細に追記してはどうか。

意見 杉戸町の課題について、これらのことを実施していく必要があるという表現ではなく、農村集落の維持や活性化など目的を記載した方がよい。取組の方針として、農地の保全や活用について記載されているが、農村集落の維持ということが大事であり、この部分について計画に記載されていないと感じる。

質問 資源ごみの回収によって町では1年間にどのくらいの収益を得て、その収益をどのように使用しているのか。

回答 令和3年度の決算では、資源ごみの売却代として2,386万円の収入があり、ごみ処理事業やリサイクル事業といった環境に関わる事業に充当している。

質問 毎年、増えているのか。

回答 売却代については、毎年度変動しており、例えば、令和2年度では1,000万円程度の収入であった。現状では、安定した財源として見込むことは難しいと考えている。

意見	現在、粗大ごみはつぶして捨てているが、使えるものは町で修繕などを行い、展示や販売などを行うことはできないか。
回答	今後の課題として、検討していきたいと考えている。
質問	木曜日に回収しているその他プラスチックは、どのように町で処理しているのか。
回答	回収したプラスチックは圧縮した後、日本容器包装リサイクル協会に送り、リサイクルしている。
意見	あまり杉戸町の具体例が入っていないように感じる。水辺の環境や空間づくりなどは、地球温暖化などと切り離し、もっと身近な感覚で「ごみを拾う」とか「子供たちが安全な食べ物を食べられるように頑張る」など、細かい具体例だとわかりやすく感じる。住民の感覚からすると、この資料は自分達には関係がないように感じてしまう。
回答	計画書の作りとして、必要な目標設定や施策の展開などについて記載している。身近な取組に関しては、南側水路や農業などについて、コラム等を設けることを予定している。
意見	家庭における堆肥化を行うにあたり、日本では食品添加物や農薬の基準が甘く、そのままでは堆肥としては、使用できないため、行政で規制をかけていく必要がある。
意見	環境基本計画の評価は、各課で行っていくのか。各種環境問題は町全体の問題であり、専門となる課が主導し、関連する全ての課と協力して取り組む必要がある。加えて町全体での評価を行っていくような仕組みを作っていく必要がある。
回答	現行計画の実施計画では、施策の進捗状況として各課の評価をまとめたものを杉戸町環境審議会に報告するのみとなっていた。新たな計画の進捗管理では、担当課の自己評価について環境課として評価を行うことを予定している。また、環境課のホームページで、1年間の取組と、どのような評価を行ったかについて公表し、少しでも関心を持ってもらえるように努めていく。

意見 環境が魅力的な街をつくっているということを全課、全町をあげてやってもらいたい。

意見 杉戸町が持っている財産を世界に向けて発信し、結果的に SDGs や温暖化対策につながればよい。

質問 コラムの話が出たが、情報提供を行えば、掲載してもらえるのか。

回答 掲載可能である。

意見 他の自主的に環境保全を行っている団体についても、コラム等で紹介してもらいたい。

意見 取組方針の有害物質等への対応に、農薬について記載してもらいたい。

意見 取組方針の公害防止対策の推進における住民の取組に、自動車での移動を控え、公共交通機関での移動に努めるとあるが、杉戸町の公共交通は使いづらいという人も多いため、使いやすい公共交通の整備について記載すべきである。

意見 施策を実行していくために、現状では、各担当課が責任を持って進めていくというように認識しているが、みんなで全部の項目について考えながら、進めていくことが必要と考える。環境が地球を動かしていくように、環境課が全ての課を動かしていくという意識があってもよいと考える。そのことについて計画に記載してもらいたい。

質問 電線の地中化は、環境課で対応するのか。

回答 町の窓口としては、都市施設整備課である。

意見 町が利便性の高い公共交通機関の研究を行い、整備していくという項目を入れてもらいたい。

意見 住民の取組と行政の取組を対になるようにしてもらいたい。

質問 バスに水素自動車や電気自動車は入っているのか。

回答 まだ、検討段階である。

意見 計画策定の方向性に、環境省でも環境がないと社会も経済も成り立たないといっているので、環境が基盤であるという記載をしてもらいたい。

質問 20年前に作った環境基本計画の最終的な評価はどのようなかたちで行うのか。

回答 計画としては、前計画の評価において、現時点で確定している令和2年度ものについて、計画の振り返りを行っている。

質問 現行計画の計画期間が終わったときには、何らかの総括のようなことは行うのか。

回答 実施計画を5年ごとで作成しており、来年度、令和4年度までの評価が出揃うので、何らかの形でまとめていきたい。

意見 目標値については、一部下がっているが、目標値は達成しなければならぬものではないので、高く掲げておいた方が良いと考える。

質問 その他プラに関しては、売却しているということだが、町で回収したものを処理していないのか。

回答 町で回収した後、圧縮してからリサイクルに出している。

質問 本日は、環境基本計画について意見を述べたということで、承認という段階ではないという理解でよろしいか。

回答 この会議の後に、パブリックコメントを実施し、その意見等を踏まえて修正を行う流れとなっているため、本日の段階で承認をいただくものではない。